

府中市教育委員会
学びの多様化学校（分教室）
保護者説明会 資料

令和6年5月24日（金）

府中市の不登校の状況

過去3年間の不登校児童・生徒数の推移

不登校数	令和2年度	令和3年度	令和4年度
小学校 22校	166	192	231
中学校 11校	214	322	381

- 不登校児童・生徒数は増加しています。
- 年度途中や年度が変わる時期に学校復帰できる児童・生徒がいますが、不登校が継続している児童・生徒もいます。

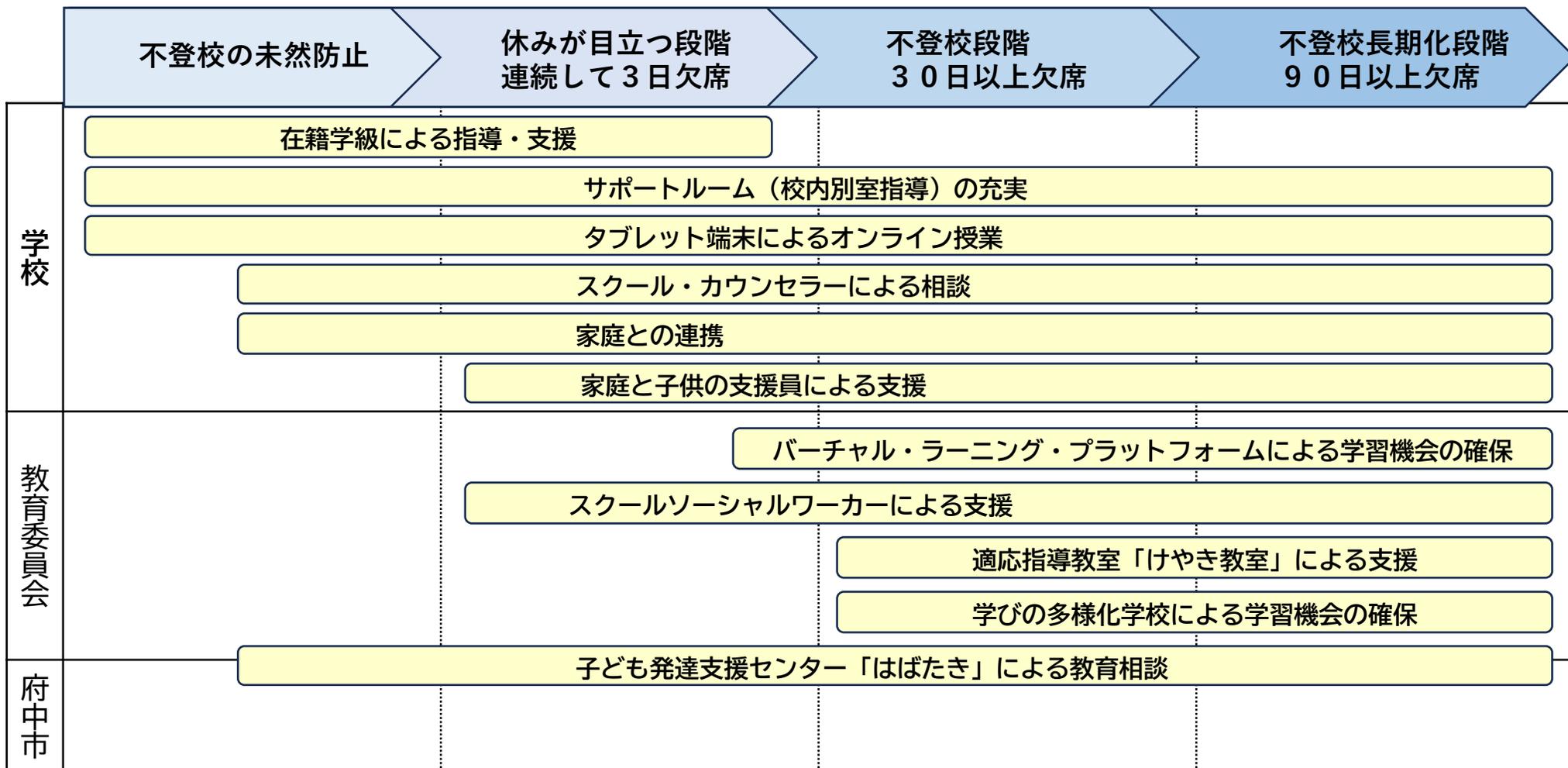
「学びの多様化学校」設置に向けた背景

不登校支援の充実

不登校状態の児童・生徒が、
個々の状況に適した場所で、
支援を受けることができる
体制づくりが求められています。

府中市の不登校対策

不登校対策には、**学校に登校するということのみを支援の目標にするのではなく、社会的自立を目指した支援**が求められています。このため、府中市全体で不登校児童・生徒への支援の更なる充実を図ります。



府中市の不登校対策

サポートルーム（校内別室指導）

- 全校に設置しています。
- 不安等で教室に入れなくなった児童・生徒や不登校の児童・生徒で教室復帰を目指したい児童・生徒が利用します。



府中市の不登校対策

適応指導教室「けやき教室」

● 学びの多様化学校と同じ施設内に設置します。

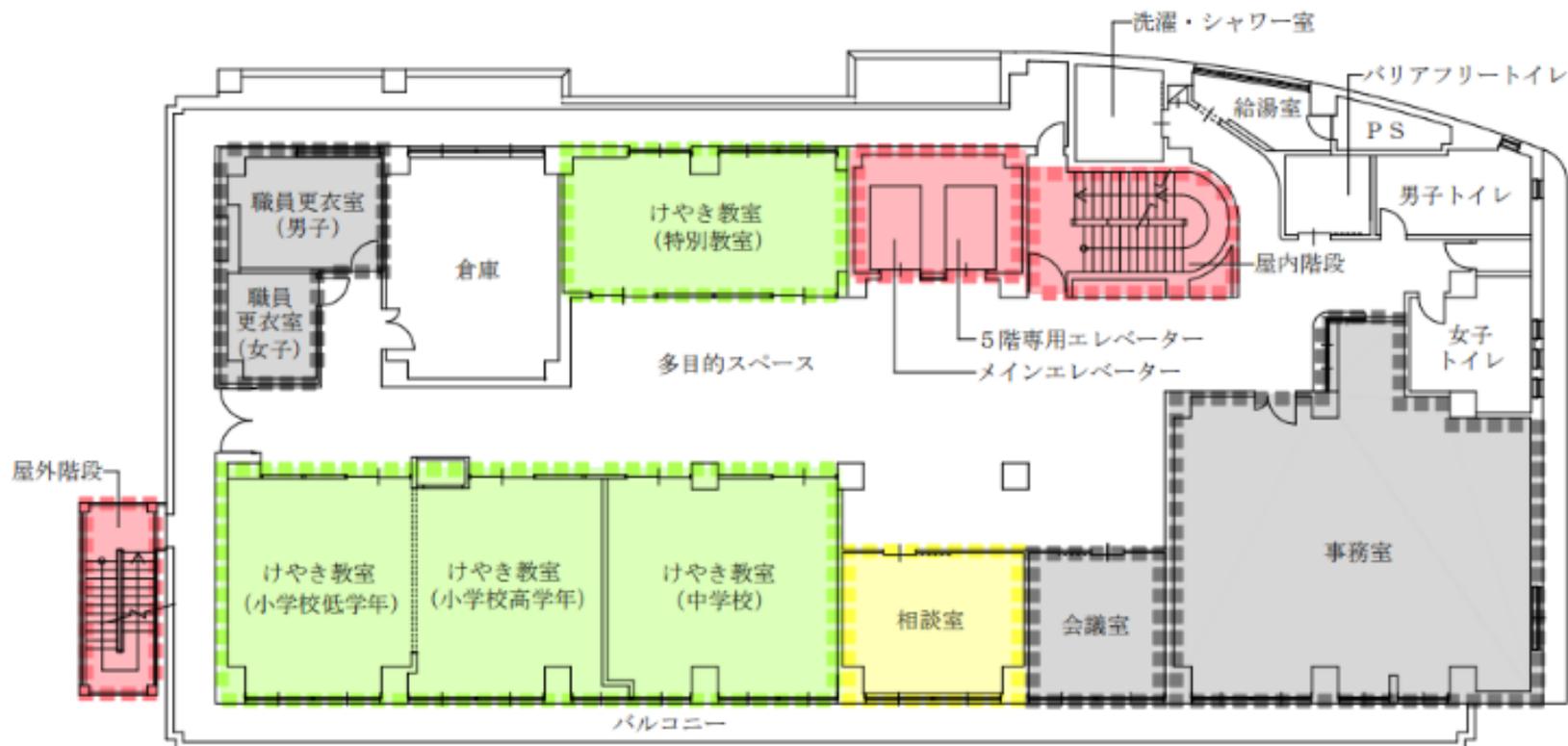
項目	学びの多様化学校	適応指導教室
概要	学校の一部として設置し、特別の教育課程を編成する。	公的機関として設置し、個別の学習や、小集団による学習の時間がある。
目標	生徒の状況に応じて、学校復帰又は社会的自立を目標とする。	学校復帰を目標とする。
学籍	本校に学籍を移す。	学籍は変更しない。
生活時程	生活時程が定められ、時間割どおりに学習する。	児童・生徒が通室した日・時間帯で個別に学習する。
学習内容	学習指導要領の内容を扱った学習を行う。	児童・生徒一人一人の学習状況等に応じた学習を行う。
学習形態	集団（少人数）学習を中心に行い、学年ごとや全学年一斉の学習を行う。	個別の学習を中心に行うほか、菜園活動や体づくり運動など、小集団による学習を行う。
支援体制	分教室の教員がスクールカウンセラー等と連携して支援する。	適応指導教室指導員と学級担任等が連携を図り支援する。
学校行事	本校の学校行事、分教室独自の学校行事に参加する。	在籍校の学校行事、適応指導教室の校外学習に参加する。



府中市の不登校対策

適応指導教室「けやき教室」

- 「けやき教室」は、3階です。



府中市の不登校対策

バーチャル・ラーニング・プラットフォーム

- 外出することによる不安感を感じる児童・生徒の学びの機会となります。
- 現在、開設に向けて準備中です。



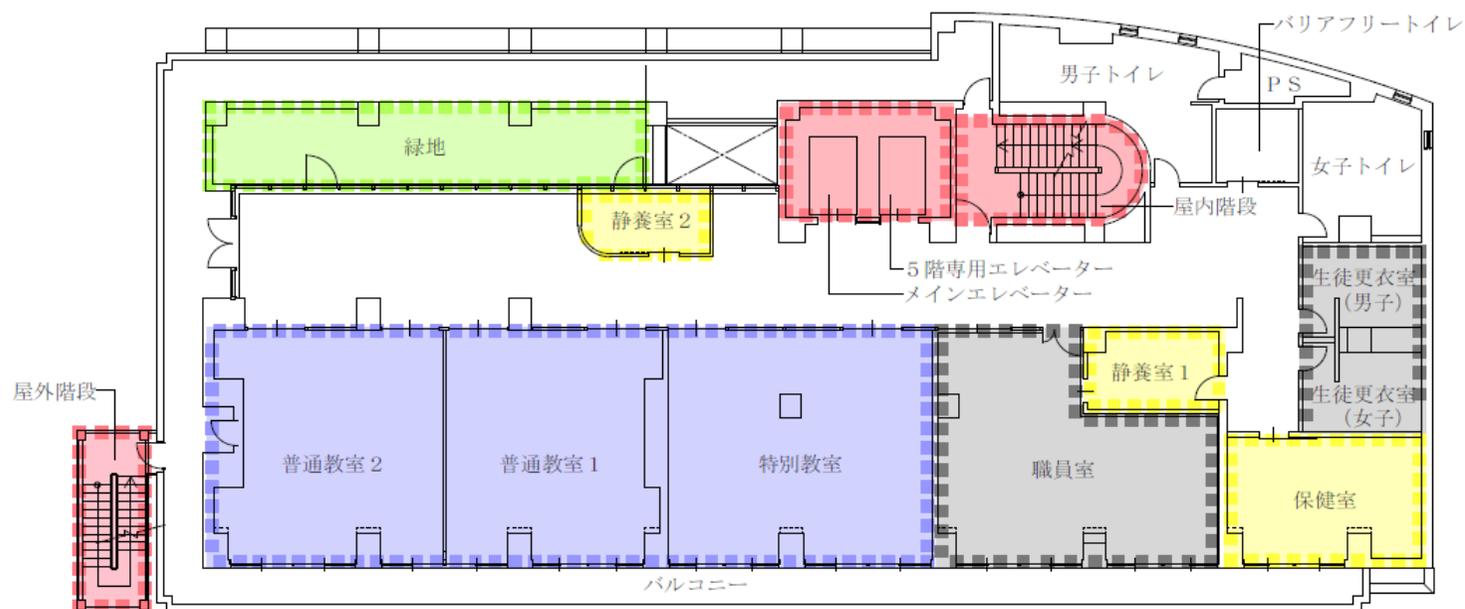
学びの多様化学校

- 浅間中学校を本校とし、浅間中学校の分教室として学びの多様化学校を設置します。
- 入室した生徒の学籍は、浅間中学校となります。
- 不登校生徒の社会的自立を目指して、学校以外の場で、特別のカリキュラムを編成して、基礎・基本の定着や体験活動を行います。

府中市の「学びの多様化学校」の特色

● 学びの多様化学校は、5階です。

- 3教室で、学年毎に授業を行います。
1教室は、特別教室として、理科や技術・家庭科、美術などの授業を行うことができます。
- 保健室と面談室（2部屋）を整備し、体調不良等の対応や面談、クールダウンができます。



普通教室



※イメージ

特別教室



※イメージ

面談室

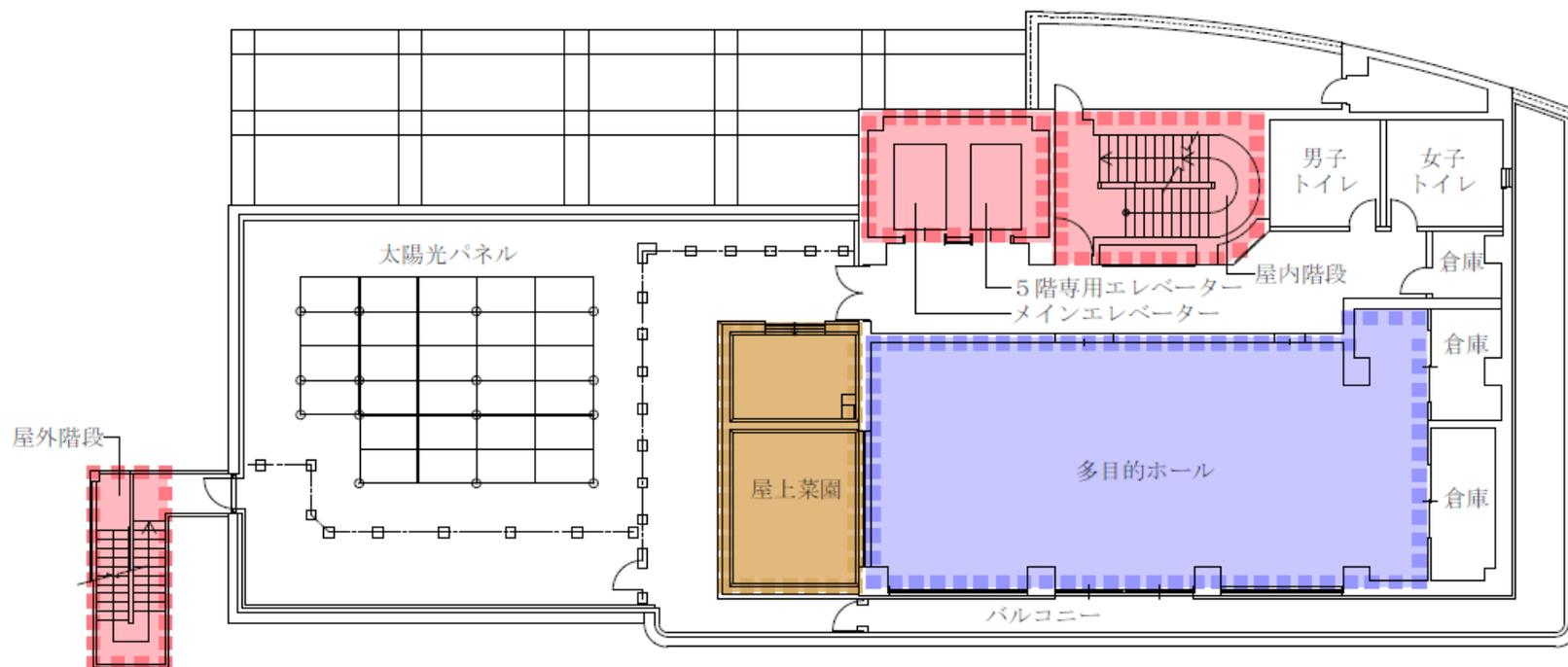


※イメージ

府中市の「学びの多様化学校」の特色

● 多目的ホールは、6階です。

- 音楽や保健体育の学習を行うことができます。
- 屋外に菜園を整備し、技術科などの栽培の学習を行うことができます。



多目的ホール



※イメージ

府中市の「学びの多様化学校」の特色

- 正規の教員が配置されます。
- 給食を提供します。
- 通学は、徒歩又は、公共交通機関を利用することになります。
- 生徒のニーズと状況に応じて、本校（浅間中学校）の行事や部活動に参加することもできます。





学びの多様化学校の 教育

府中市立学校における学校教育の方向性

府中市教育委員会 令和6年3月

これからの府中市の学校教育で大切にしたいこと

変化の激しい、予測困難といわれる時代を生きる児童・生徒にはどのような力が必要でしょうか。そのために学校は何ができるでしょうか。府中市教育委員会では、義務教育9年間をととして、児童・生徒に必要な力を身に付けてもらうために、特に重視して取り組む教育活動の基本的な考え方をまとめました。

これからの社会

- VUCAの時代
- 少子化・人口減少や高齢化
- グローバル化地球規模の課題
- DXの進展 AIの活用
- 精神的豊かさの重視 ウェルビーイング

VUCAとは：Volatility（変動性）・Uncertainty（不確実性）・Complexity（複雑性）・Ambiguity（曖昧性）の4つの単語の頭文字を並べたもので、予測が難しく、変化が激しい社会を表す言葉です。

グローバル化に伴う地球規模の課題、AIの進化など急速な情報化の進展、少子化や人口減少など、社会の変化が複雑で予測困難となっています。これからの児童・生徒には、変化の激しい社会の中でも感性を豊かに働かせ、試行錯誤しながらよりよく問題を解決する資質・能力の育成が求められています。府中市教育委員会では、義務教育9年間で特に重視して育成を目指す資質・能力を次のように設定しました。

府中市の義務教育9年間で特に重視して育成を図る資質・能力

課題を発見し、課題解決に主体的に向き合い、自らの考えを形成するとともに他者と協働しながら合意形成を図り、よりよい自己を実現する力

府中市立小・中学校が特に重視する資質・能力を育成するために、特に重視する4つの学びをまとめました。これらの学びを教科の授業や学校行事等、教育活動全体で重視することで、各教科で育成を目指す資質・能力はもちろん、これからの社会の中で必要な資質・能力の育成につながると考えています。

これからの教育活動において特に重視する4つの学び

- 〇発見すること**
児童・生徒が、主体的に目標や課題を発見し、課題解決や自己実現に向けて見直しをもって、自主的・実践的に学ぶことができるようにする
- 〇対話すること**
児童・生徒が、多様な価値観を認め、考えを相互に伝え合い、合意形成を図ったり問題解決を図ったりできるようにする
- 〇決定すること**
児童・生徒が、課題解決や自己実現に向けて、集団や自己の状況を把握しながら調整し、方法・目的・結果等を決定できるようにする
- 〇表現すること**
児童・生徒が、よりよい自己・集団・社会の実現に向けて、言葉や行動で表現できるようにする

この「特に重視する4つの学び」を充実させることで推進される学校教育を、「きづく」「つながる」「たかめる」という3つのキーワードで整理しました。

これからの府中市立小・中学校教育のキーワード

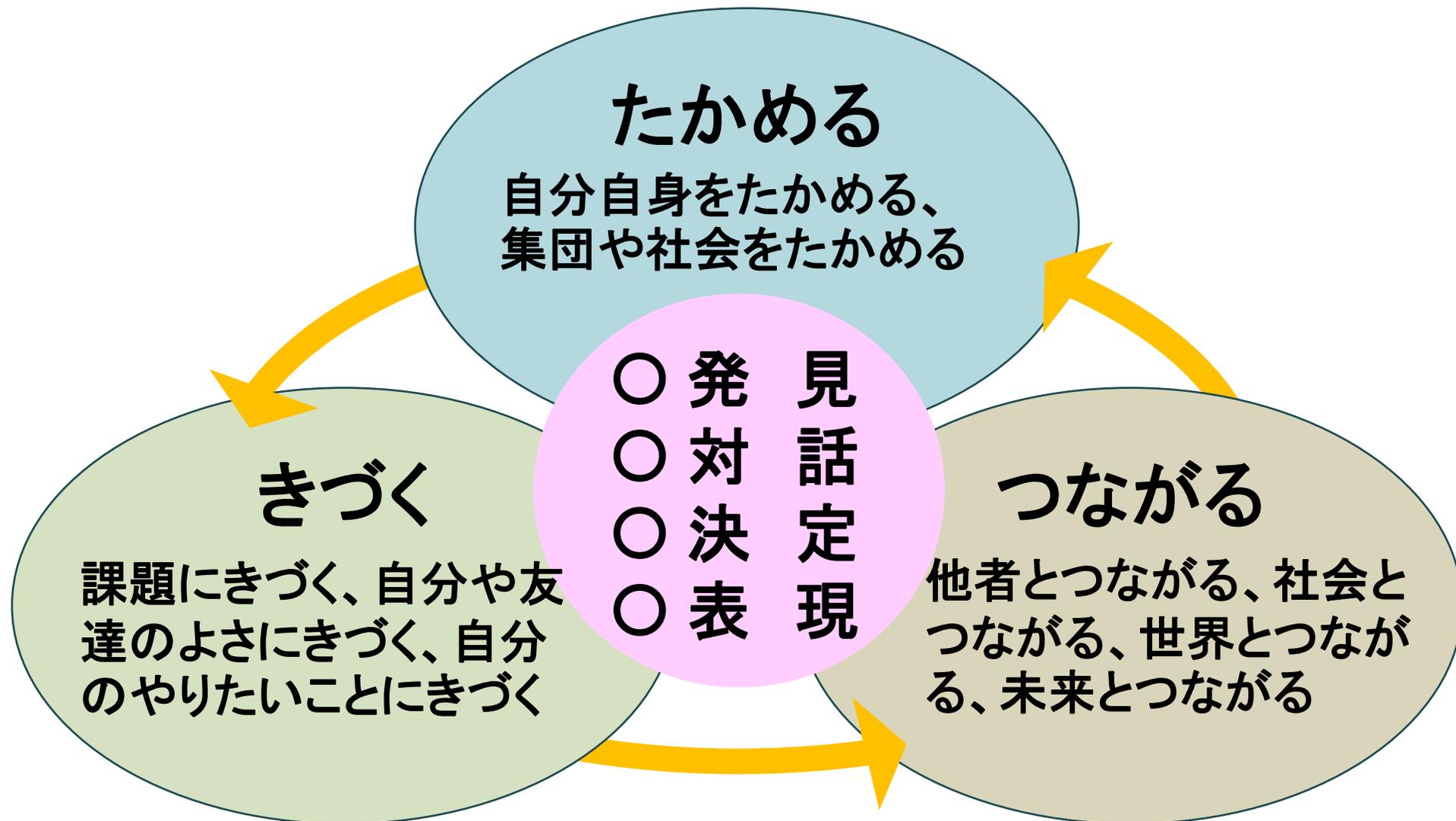
- きづく**
 - 自己や集団の課題にきづく
 - 目標にきづく
 - 自分や友達のものにきづく
 - 心身の状態にきづく
 - など
- つながる**
 - 友達や先生等とつながる
 - 学びがにつながる
 - 未来や世界とつながる
 - 学校、関係機関、社会とつながる
 - など
- たかめる**
 - 自己実現に向けて自分自身をたかめる
 - 自己肯定感をたかめる
 - 学力や体力をたかめる
 - 集団や社会をよりよくたかめる
 - など

課題を発見し、課題解決に主体的に向き合い、自らの考えを形成するとともに他者と協働しながら合意形成を図り、よりよい自己を実現する力

府中市教育委員会ホームページから
令和6年度以降 府中市立小・中学校の教育課程編成に向けたグランドデザイン

府中市立学校における学校教育の方向性

全ての教育活動において、大切にしている視点



府中市立学校における学校教育の方向性

学びの多様化学校における教育活動の重点事項

人間関係形成能力
コミュニケーション能力
多様性・他者理解



協働的な学び

- 発見
- 対話
- 決意
- 表現

見話定現

きづく

課題にきづく、自分や友達のよさにきづく、自分のやりたいことにきづく

つながる

他者とつながる、社会とつながる、世界とつながる、未来とつながる

学びの多様化学校のキーワード

「つながる」

自分とつながる（みつめる）

様々な体験的な活動を通して、自分のよさを再認識し、自己肯定感や自尊感情の醸成を目指します。

人とつながる

協働的な学習を通して、相手のことを理解したり、相手に自分のことを理解してもらったり、相互理解を目指します。

社会的な自立

未来とつながる

様々な立場の方から話を聞く学習をとおして、自己のキャリア形成について考えます。

社会とつながる

大学や事業者等と連携した学習を通して、社会について知り、自分が何ができるか考えます。

特別なカリキュラムの方向性(案)

- 学びの多様化学校は、本校と同じように、学習指導要領に基づく教育課程に沿って学習することが望ましいとされていることから、本校の生徒と学習内容に差が生じないように、学習内容を減らすことはしません。
- 学びの多様化学校の生徒の状況に応じて、柔軟に対応していきます。

特別なカリキュラムの方向性(案)

- 朝の始業時刻は、登校時間に余裕がある時刻とします。
- コミュニケーションスキルなどの学習を行う時間があります。
- eライブラリなど、デジタル教材を活用した補充学習や予習学習、体づくり運動を行う時間があります。
- 先生や友達と気軽に話せる交流の時間があります。
- 今の自分を見つめたり、将来の夢を考えたりするキャリア教育の充実を図ります。

对象生徒

対象生徒

- 市立中学校に在籍している不登校状態にある生徒
- 市立中学校に入学予定の小学校第6学年の不登校状態にある児童（入室年度の前年度に申請します）

予定生徒数

各学年10名程度を予定しています。

対象生徒

学びの多様化学校に入室したけど、
「通うことができなくなってしまった。」

「やっぱり自分はだめなんだ」

と、生徒の自己肯定感や自尊感情を
低下させたくありません。

対象生徒

- ・定期的な外出（外出への意欲）
 - ・生活リズムの改善（改善への意欲）
 - ・他者との関わりに対する意欲 など
- ➡ 少しずつ外とのかかわりを増やしていけるよう、入室体験を実施

対象生徒

入室については、
面談や入室体験を踏まえて、
不登校児童・生徒の状況に応じた
不登校支援について総合的に検討し、
本人にとって適している環境を
入退室検討委員会において、
総合的に判断します。

例えば、こんな場合は？

○ 今の学校に復帰し、友達と一緒に卒業式を迎えたい。

○ 学校の行事や好きな授業には参加できる。

○ 今の学校には通えないけど、環境を変えれば通える。

➡ 不登校児童・生徒一人一人の状況は、異なります。入室に向けては、在籍校で個別に面談を行います。

開設1年目(令和7年度に向けた募集)

9月 募集方法の周知

- ・ 体験(2, 3週間を予定)
- ・ 在籍校や本校の校長と面談
- ・ 入室申請の提出

12月 入退室検討委員会

※令和8年度入室(令和7年度募集)については、在室状況によって、年度途中の募集も検討しています。

卒業後の進路

◎都立高校への進学

普通科やチャレンジスクール、エンカレッジスクール、通信制や定時制など、本人の状況と希望に応じて、丁寧な進路指導を行います。

◎私立高校の全日制や通信制も選択肢となります。